

神の愛を伝える



アリー・B, 12才
(アメリカ合衆国ケンタッキー州)

少前、家族と一緒にケンタッキー州に引っ越してきました。引っ越しで、友達や親せきと遠くはなれてしまい、ほんとうに悲しかったです。

ケンタッキーはわたしが慣れ親しんだ場所とは随分とちがっていました。初めて教会に行ったとき、あまりたくさん人がいないことが分かりました。自分の支部がとても小さいことに気づいたとき、そのことについて悪く考えるよりも、何かしようと決心しました。

次の日、母とわたしはお店に行きました。家を出るとき、パスアロングカードを一束持って行きました。店に着くと、キャンディーバーを一つ取ってレジに行きました。店員はキャンディーをレジを通して手渡してくれました。わたしがキャンディーを返すと、彼女は混乱した様子で言いました。「しはらいは、すんでいますよ。」

「分かっています。でもあなたにあげます。プレゼントです。」そして、キャンディーと一緒にパスアロングカードも渡しました。彼女は微笑んで、「ありがとう」と言い、パスアロングカードのうらを見ました。わたしはそこに「すべての人は神の子供です」と書いておきました。たとえ彼女が教会に入らなかったとしても、何か良いことをしたのだと思い、幸せな気持ちで帰りました。

その日、後になって残りのパスアロングカードをレジの近くにわすれてきたことを思い出しました。次にその店に行ったとき、まだそこにあるか聞きに行ったのですが、そこで見た光景に、わたしは思わず立ち止まりました。ました。およそ5台のレジに「すべての人は神の子供です」と書いたパスアロングカードが置いてあったのです。あのレジ係が配ったのでした。わたしは自分がしたことには大きな幸せを感じました。■

